

今回は「信州新町イヤー」にちなみ信州新町の懐かしい昭和初期の風景をご紹介します。言うまでもなく信州新町は古くから長野と松本・大町を結ぶ交通の要所として発展。また久米路峠に代表される山紫水明の地であり多くの文人墨客も訪れました。その豊かな自然環境は今も変わらず私たちを魅了します。

写真提供：信州新町公民館



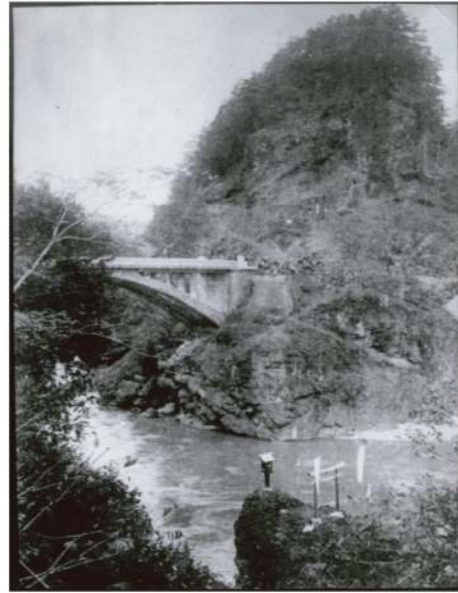
昭和初期の信州新町 横井弘三もよく描いた風景で、蛇行する犀川の中ほどに見えるのが新町橋



市街地風景 家並みが続く本通りは現在も商店などが建ち並ぶ町のメインストリート



犀川河川敷に着陸した複葉機 デモンストレーション飛行でやってきた珍しい飛行機に大勢の観衆が集まった。



犀川通船の酒米掲ぎ船と船着場 犀川流域の物流の要として江戸時代から活躍した犀川通船だが、篠ノ井線の開通や国道19号線の整備に伴い昭和初期にその役割は終わりを迎えた。

昭和8年(1933)、鉄製つり橋からコンクリートアーチ橋に架け替えられた久米路橋 県歌『信濃の国』にも歌われ、聖徳太子の時代には架けられていたと伝わるこの橋は、安藤広重や菅江眞澄など多くの画家や文人が景勝・久米路峠のシンボルとして描いた信州を代表する歴史の橋

信州新町支所で文書資料を整理しました  
6月21日

「丸山家文書」(丸山家)  
7月28日

「旧芋井村役場文書」  
(芋井地区住民自治協議会)  
8月23日

一般公開に向けて、整理・目録作成・保存等の作業を進めています。



熱心に話を聞く筑波大学の皆さん

日々是文書  
—スタッフ通信—  
筑波大学の学生が見学に来られました  
9月8日  
筑波大学で歴史・人類学を専攻する学生の皆さんが、実習授業の一環として当館へ見学に来られました。

長野市公文書館

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内 (〒380-0801)  
電話 026-232-8050 FAX 026-232-8051  
HP <http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/>  
又は 長野市公文書館 で検索

開館時間 午前9時～午後5時 (閲覧申込みは午後4時30分まで)  
休館日 土曜日・国民の祝日・年末年始 (12月29日～1月3日)

こんなときにはご相談ください。

- 古い土蔵などを取り壊すので所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- 所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。

長野市公文書館便り

発行日：平成23年(2011)9月27日 発行：長野市公文書館



「信濃国大地震山川崩激之図」(長野市公文書館所蔵)  
上・崩落区域図 左・水害区域図(部分)  
地震によって地滑りや崖崩れが起き、犀川流域では土砂ダムが発生(犀川下流に水が流れていないことが読み取れる・破線囲み部分)。3週間後、土砂ダムが決壊し善光寺平は広範囲にわたり水害に見舞われました。

講師：赤羽 貞幸 氏 (あかはねさだゆき・信州大学副学長)

日時：平成23年10月18日(火)  
午後1時30分～午後3時30分

会場：長野市城山分室 大会議室  
(長野県信濃美術館東)

聴講無料

今年3月の東日本大震災発生以降、日本列島では地震活動が活発になっていますが、今から164年前の弘化4年(1847)、長野盆地で発生した善光寺地震(M7.4)も極めて大きな被害をもたらしました。この善光寺地震は数多くの記録が残されており、今日的にも地震対策の上で学ぶべきことがたくさんあります。講演では善光寺地震と震災の特徴、地震発生のメカニズム、最近の地震活動や災害への備えなどについて信州大学の赤羽貞幸副学長にお話をいただきます。併せて善光寺地震を記録した絵図や古文書などの写真パネル(複製)も展示します。

長野市公文書館開館四周年記念講演会  
善光寺地震に学ぶ  
—震災の特徴と発生メカニズム—

同時開催  
開館四周年記念パネル展  
「今に伝える善光寺地震」  
10月17日(月)  
10月21日(金)